

外国語活動の指導案

平成21年9月24日(木) 3校時

緑小学校4年1組 31名

T1 佐々木博司

T2 榎本

T3 Kevin Mitchell (ALT)

1. 単元名

「楽しくふれあおう ～言葉のかべをこえて～」(総合的な学習の時間)

2. 単元観

千歳は、外国語活動の学習をすすめるにあたって、絶好の環境がそろった空港の町である。「国際的な町」「観光の町」ではあるが、実態を聞いてみると、子ども達が外国の人々と触れあう機会が多いかということ、意外と少ないようである。

様々な意味でのコミュニケーション力の育成は、今日的課題となっている。この授業は、町のどこかで外国の人々と接する機会があった時に、違和感なくコミュニケーションをはかることができるよう、挨拶などの基本的な会話や様々な手段で思いを伝えようとする姿勢をみにつけてもらうことを目的としている。そして、今回ネイティブのゲストティーチャーを招いて、交流中心の活動を行うこととした。

研究内容とは、「自分の思いを伝えざるを得ない状況をつくる」、「ネイティブとの交流」、「コミュニケーション力の育成」などの点において関わってくる。授業では、交流の自主課題設定、言語、紙媒体(インタラクティブユニット)、ジェスチャー等々、様々な表現手段を通して何とか自分たちの思いを伝えることにより、コミュニケーション力を育成していきたい。

3. 児童の伸ばしたい力

本校では、「確かな学力を身につけ、思いを伝え合う子どもの育成」を研究主題とし、様々な領域を通じて、3年間研究を進めてきた。今年度からは、「すすんで聞こう、話そうとする児童の育成」として、コミュニケーションを豊かにする外国語活動のあり方を研究課題としている。

よって、児童のコミュニケーション力を育成するという点において、継続性・発展性のあるテーマとなる。領域・教科は、外国語活動(英語)に限られるが、今回の授業で、自分が相手に伝えたいことを様々な手段を使って表現しようとする力を育成していきたい。

4. 学習課程(8時間扱い)

時数	目 標	学 習 内 容	
1	○授業の見通しを持つ。 ○簡単な挨拶・自己紹介・お礼の言葉が言える。	○ネイティブ(native speaker = NS)との交流をすすめるという見通しを持たせる。	T1
		○ NS に対して、簡単な挨拶や自己紹介、お礼の言葉を一人一人が言えるように練習する。	T2
		※朝の会のメニューに入れ、日常実践していく	T1

		く。	
2 3	○ NS との交流で、質問などの準備を意欲的に行うことができる。 [英語学習以外のみどり]	○質問や交流の内容を考え、言葉や活動を練る。 ○どのように伝えるかを考える。 ○課外活動や日常的な活動と結びつけて準備していく。	T1 (松隈)
4 6	○ T2 との関わりの中で、交流内容が相手に伝わるように準備・工夫することができる。	○質問や交流内容などの伝えたい内容が、相手に伝わるように個別のグループごとに練習・検証する。 ○相手の答えを予想して、単語を覚える。	T1 T2
7	○ T2 との関わりの中で、交流内容が相手に伝わるように準備・工夫することができる。	○質問や交流内容などの伝えたい内容が、相手に伝わるように練習・検証する。 ○交流の準備をする。	T1
8 本時 9/17	○様々な手段で、NS と意欲的に交流することができる。 ○他の交流を見て、効果的なアドバイスができる。	○伝えたいことや交流内容をもとに、NS と交流する。 ○他の児童の交流を見て、どのようにしたら伝わるかを考えながらアドバイスをする。	T1 T2 T3

5. 本時について

①目標

- ・様々な手段を使って、交流内容を伝えようとするすることができる。
- ・一人一人がNS と、意欲的に関わろうとすることができる。

②本時の展開

	児童の活動・内容	教師の働きかけ	備考
3	1. 交流の相手を知る。 2. 疑問点があれば、質問する。	1. NS の紹介。 2. 活動の流れの確認。 ▽3分間で、交流する。 ▽「言葉」「イラスト」「ジェスチャー」を使う。 ▽最低一人一回は、接する。 3人の先生の役割の確認。	○日本語を話さない 約束
39	3. 一つ目のグループは交流を始める。 ▽あいさつ・自己紹介 全員 ▽言葉によって、交流内容を伝える。 ▽イラストによって伝える。	3. 一つ目のグループの交流 ▽タイムの経過を知らせる。 ▽次の手段へのタイミング指示。 ▽機材の準備	○交流の順番を事前に決めておく。 ○電動計時板活用 ○インタラクティブユニット

	▽ジェスチャーによって伝える。 ▽時間があればアドバイス。	▽アドバイスの子の意見を聞く。 ▽相手の答えを訳す。 ▽伝えることができなかった場合、T2 に訳してもらおう。時間のバランスに注意する。	○ T2 の支援 ○ T2 の支援
	4. 他グループの交流 全10グループ		
3	5. ゲストへのあいさつ お礼のことば		

6. その他

伝える手段の段階

- ①言語
- ②イラスト インタラクティブユニットの活用
- ③ジェスチャー
- ④友達からのアドバイス
- ⑤ T2 榎本先生の支援

順番にこだわらずに進行する。
イラストが有効でない場合もある。

T2・T3の関わり等

交流の視点

- ①日本語を使わない。できるだけ、簡単な単語で答えてもらう。
- ②交流内容は、質問(言葉)に限らず、スキンシップなどでもよい。
(短時間でできるのであれば、動作を伴う交流でもよい。)
- ③榎本先生(T2)の役割
 - ・伝えるための全ての手段が、うまくいかなかった場合の支援。
 - ・児童が、NSの答えを理解できない場合の通訳。
- ④T4として、松隈さんに協力してもらった。

※ T3の選出

「JICA-国際協力機構」の関係機関などへも打診したが、「日本語を話せない」という条件にあてはまる人がいなかったため、ALTをお願いすることにした。

T3を教育委員会学校教育係で調整してもらい、千歳市内のALT 2名の内、Kevin Mitchellさん(男性)に決定した。

- ⑤ Kevin Mitchellさんとの交流内容の翻訳などで、クラスの松隈ひかるさんのお母さんに協力していただいている。